

浦安市市民活動補助金交付事業報告書

団体名	アスペルガーの自分取扱説明書
事業名	アスペルガー障害(発達障害の一種)の困難緩和を目指すコミュニケーション力向上セミナーの開催及びその進行役養成

事業内容	<p>【前半】(4 月～9 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ(参加型セミナー)を日曜日 2 回、平日 1 回の 3 回実施。 ・前期ワークショップの参加者数は 3 回で 11 名、11 名 14 名の 36 名であった。 ・講師の提案で 9 月に冠地情さんの講演会とワークショップのデモンストレーションをワークショップ前に行ったところ、30 名の参加があった。 <p>【後半】(10 月～3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター(進行役)養成研修を 1 期(8 時間×4 日)実施。 参加は 2 名であった。週末を使って実施した。 ・その後、実践ワークショップを日曜日(11/4)と土曜日(1/26)に 2 回実施、参加者 20 名、11 名の合計 31 名の参加。 新たにファシリテーターになった者がすぐに経験を積めるようファシリテーター養成研修最終日と 1 月にワークショップを実施した。 <p>【前後半を通じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ開催前には、様々な広報手段(市報、市内掲示板、市民活動センターHP、ブログ、ミニコミ誌、病院、福祉事業所等)を用いて多くの人の目に触れるよう工夫を図った。 ・同時に、これら補助金事業と並行して行う当会の他の事業(講演会、月例交流会)からも常に参加者を募り続け、誘い続けたが、参加者は思いのほか伸び悩んだ。ファシリテーター(進行役)研修も当初参加予定の人が実施日(講師の都合)と予定が合わず、参加が叶わなかった。 ・参加者は 11 月の 20 名が最多であった。これは、10 月のハートネットTVでイトコサガシがとりあげられた影響が大きいと思われる。 ・会場が 11 月 1 月は WAVE の抽選予約で外れて、文化会館を使用することになった(参加者の中には、障害特性もあり間違ってしまう人もいて遅刻者が多かった)。 ・10 代の青年の参加がのべ 5 人 7.5%、リピート率は 33%であった。。
------	---

	当初		実績	
事業スケジュール *できるだけ詳細に記入してください。	4-5 月・ワークショップ前 準備会(打合せ等) ・第 1 回ワークショップ開催		4/10 打合わせ 5/20 2012 年度 第 1 回ワークショップ開催 WAVE101 参加 11 名	
	5-6 月・ワークショップ前 準備会 ・第 2 回ワークショップ開催		6/5 打合わせ 7/5 2012 年度 第 2 回ワークショップ開催	
	7-8 月・ワークショップ前 準備会 ・第 3 回ワークショップ開催		7/3 打合わせ 9/9 2012 年度 講演会と第 3 回ワークショップ 開催 WAVE101	
	9~10 月・ワークショップ前 準備会 ・第 4 回ワークショップ開催		講演会参加 30 名 WS 参加 14 名	
	11~12 月 ・養成研修前 準備会 ・ファシリテーター養成研修実施 (1 期分 4 回)		9/4 打合わせ(10 月養成研修のため) 10/27,28,11/3,4 ファシリテーター 養成研修実施 浦安市文化会館、WAVE101 研修生 2 名参加	
	1~2 月 ・ワークショップ前 準備会 ・第 5 回ワークショップ開催		11/4 2012 年度 第 4 回ワークショップ開催 浦安市文化会館 参加 20 名	
			1/16 ワークショップ前 準備会 1/26 2012 年度 第 5 回ワークショップ開催 浦安市文化会館 参加 11 名	
			4 回参加 3 名 3 回参加 2 名 2 回参加 2 名 リピート率 33% (イトコサガシ全体では 25%)資料*	

事業報告書

事業変更理由

※事業内容を変更した場合や当初スケジュールどおりに進められなかった場合、その理由を簡潔に記入してください。

講師の都合により、ファシリテーター養成研修が 10 月末から 11 月はじめになったため、当初 4 回ワークショップを実施したのちの研修だったが、3 回実施後の研修となった。研修後 1 回の予定のWSを、2 回実施したので、合計 5 回のワークショップは開催できた。

成 果

地域課題
の 解 決
・
市民ニーズ
への 対 応

【当事者 50 名 73%】10代男性で、ストーカーをしたり、家庭内暴力を振るっていた青年が、このWSに参加した後、ストーカーをやめ、バイトを始めたと母親から報告があった。彼は、ワークショップに 3 回参加した。／40 代男性。30 年近い引きこもりの末、ワークショップ参加後、突然トルコへのツアー旅行に出た、と母親からメールをもらった。／20 代女性、うつで引きこもっていたが、人としゃべる場所を求めて、ワークショップに参加し、隣に座った女性と親しくなった。2 回参加。／40 代女性、うつで休職中。かわばた眼科でポスターを見て参加。楽しかったとその後も交流会に来ている。／中3男子、不登校中にWSに参加。積極的に手を挙げ、明るく話すことが出来た。高校に進学した。10 代の参加者が 7.5%(平均 3% * 資料)と多かった。

【保護者 14 名 21%】上記の 3 人の男性の母はとにかくほっとした様子だった。中3の母はファシリテーター養成講座を受講した。保護者で船橋市議の参加もあった。

【支援者 3+1 名 6%】司法書士、介助の補助教員、千葉県精神保健福祉センター職員の参加があった。その後、同センターでイトコサガシ代表の冠地情さんとアスペ取説・副代表の横山が呼ばれて、支援者向けにピアサポートの話をする機会を得た。その会に参加していたNPO法人フレンズの職員から、「うちにも話にきてほしい」と声をかけていただいた。お一人、障害者レストランを浦安市内で運営しているNPO法人の代表の方のボランティア参加があった。

【全体】ワークショップ終了後は参加者の表情も明るく、日常に持ち帰っているんなチャレンジをしてみようという気力を感じる人が多かった。

自立の
促 進
・
活動の
発展性

ワークショップは、今後、単独開催が出来る体制が整った。一般向けだけでなく、市内事業所などでも要望があれば開催できる。千葉県全域からも要望があれば、出向くことになるかもしれない。そのことは、浦安市民がより多様な地域で自由に参加できることを意味する(浦安では身元が知られるのが嫌で参加を躊躇する人が実際いたので)。フレンズさんとは、これまで「すてんぱれ」にワークショップのポスターを掲示していただく協力関係だったのが、より深い関係に発展しそうである。

	予算額	決算額
総事業費	432, 210円	411, 728円
補助金額	334, 248円	323, 980円